

体験活動を通して、ふるさとのよさに改めて気付かせる活動

当麻町立当麻小学校、当麻町立宇園別小学校、当麻町立当麻中学校 (当麻町田んぼの学校)

1 施設の概要

当麻町では、ふるさとに対する理解を深め、命を尊び、郷土を愛する健全な心を育てることをねらいとして、約1.2haの水田と約8aの畑を活用し、町内全ての小・中学校の児童生徒による地域の農業の歴史学習や、体験活動を取り入れた「当麻町田んぼの学校」を実施しています。

児童生徒が、自ら土に触れ、手をかけて育てた米や郷土の特産物は、全て学校給食や地域の方々との交流のために活用されます。

また、「当麻町田んぼの学校」の農舎には、町の農業の年譜や農具を展示したり、児童生徒が主体的に学習できるようスペースを整備したりするなど、工夫がなされています。



2 活動の様子

<6月上旬>
「田植え」の実施

町内の児童生徒 280 名と町内ボランティア 80 名により「田植え」を行っています。



(児童生徒の感想)

- 田植えをしている時にカエルやゲンゴロウを発見し、田んぼに色々な生きものがいることが分かりました。
- 昔の人の苦勞を体験することができたので、改めて作ってくれている人への感謝の心をもつことができました。
- 何度も転びそうになったけれど、できたお米を給食で食べられる日が楽しみです。

(参加したボランティアの方々の感想)

- 田植えは初めての体験で大変でしたが、子どもたちが頑張っており、一緒にできて楽しかったです。また参加したいです。
- 子どもたちが田植えをしている姿は、おいしいお米の誕生を期待させるものでした。収穫後、子どもたちと一緒に試食を楽しみたいです。

<5月～8月>

当麻小学校5年生による「田んぼの教室」の実施

町土地改良区の協力を得て、水田やその周辺にいる動植物の観察を通して、水の大切さや安全な米ができるまでの過程を学ぶ学習を行っています。



<9月>

「稲刈り」の実施

児童生徒と地域のボランティアの方々が協力して稲刈りを行っています。

収穫されたお米は「JAとうま」の協力によって定温貯蔵され、精米から間もない新鮮な米が学校給食で提供されます。

また、町内の各学校の特色ある取組の一つとして、一緒に作業したボランティアの方々と収穫した新米への感謝の気持ちを込めて、試食体験を行っています。



<10月～>

収穫された米の活用



児童生徒が育てた米が1年間の学校給食のご飯をまかなっており、食の大切さを学ぶことができます。

また、品種の違う2種類の米を食べ比べて食味の違いを感じる経験もできます。

さらに、児童生徒の家庭に収穫された新米を配布し、家族でふるさとへの理解を図ったり、コミュニケーションをとったりするきっかけとなっています。

その他、町内のイベントで、児童生徒が、地域住民に『田んぼの学校の米』を直接配布する機会を設定するなど、地域とのつながりと愛着を育む活動を行っています。

3 Naviポイント

- 地域の人材や地域の特色を生かした体験活動を通して、ふるさとのよさに気付かせ、愛着を育むことが大切です。
- 自分たちで作った米を実際に給食で食べるなど、取組の成果を実感し、学ぶことの楽しさや成就感を体得させるよう工夫することが大切です。